ＩＳＳＮ　0388－5569
ＶＯＬ．18　No.2
（通巻53号）
１９９７．８

Library News

山口大学附属図書館報

目次

図書館めぐり …… 1
新図書館システムの構築にむけて〈図書館職員研修〉 …… 2
第６８回日本医学図書館協会総会参加報告 …… 5
本学関係教官寄贈図書 …… 6
平成９年度附属図書館関係各種委員会名簿 …… 7
平成８年度図書館統計表 …… 8
人事異動 …… 9
日誌 …… 9
お知らせ …… 10
トピックス …… 11

図書館めぐり

館　長　川　口　政　宏

図書館に関係するようになり、俄によその図書館のことが気になりだし、３月から６月まで図書館巡りを行った。印象に残った館を３つほどあげてみたい。

慶応大学藤沢キャンパスは３月下旬に、福岡市立図書館、立命館大学は５月に、その他は６月に見学した。いずれの図書館も情報化、電子化に対応するために努力し、それぞれの成果を上げているようだった。

大学の図書館とはやや目的を異にするが、福岡市立図書館は、最新鋭の設備とすぐれた居住性を持った美しい建造物である。書庫から利用者に搬送するシステムは機械化されていて、館員の負担の軽減と、省力化を図っているようだ。市民解放を主目的にしているので館内外の環境は快適で、子ども連れが多く、子どものための色々な設備が整えられている。このため、長時間図書館で過ごす家族連れが多い。大学市民開放関連で、今後検討すべき課題であろう。

ここは、図書、文書、映像の３部門で構成され、「読む」、「観る」、「聴く」、「憩う」ための図書館と謳っているので、随所に工夫を凝らし、魅力ある館内構成となっている。

マルチメディア関連にも重点を置いているので、映像ホール、ビデオライブラリー、音響関連設備、視聴設備は特に充実している。

私は環境造形が専門なので、特に、館内外の環境設計に目がいってしまう。この図書館は、一見無用に見える空間、即ち「遊びの空間」をかなり設定していて、それが落ち着いた色彩構成と、木を多用した素材感と相まって、ゆったりとくつろげる空間構成になっている。

機能一点張りの大学図書館にもこのような考え方を導入していくべきで、我々の図書館も館内外の環境を総点検して、よりよい環境作りを目指したい。

慶応大学湘南藤沢キャンパスの図書館もまた、従来の図書館の概念には収まらないコンセプトによって運営され、図書館の名称は冠さず「湘南藤沢メディアセンター」と称する。紹介文によると、従来の図書館と計算センターが一体化した組織で、双方の機関を融合させることによって、新しいサービス展開と情報資源の効率的な利用を促進させることを企図するとあり、センターの業務は、図書館機能、計算機能、教材作成機能の３点となっている。

このコンセプトは、立命館大学でも各キャンパス間ネットワークをインターネットとリンクさせ、教育、研究支援のためのレインボウ、即ち、統合情報システムとして更に規模を大きくして実施されている。衣笠キャンパスの図書館もそのリンクの中に存在する（名称は図書館）。更に、琵琶湖畔、草津キャンパスの図書館は「メディアセンター」の名称で、従来の機能はもとより、印刷物に限らず音声・文字・画像などのあらゆる情報媒体を通じて情報提供することをその役割としているのも慶応湘南藤沢キャンパスと同じである。

両大学図書館の姿は、従来の図書館が担ってきた学術・研究分野に於ける情報源としての役割から、日毎に目まぐるしく変わる情報社会に対応可能な新しい情報源を構築したことを意味する。

慶応湘南藤沢キャンパスを案内をして下さった環境情報学部大岩元教授によると、このキャンパスの特徴は、ＵＮＩＸワークステーションを積極的に導入して大規模な構内情報通信網「キャンパスネットワークシステム」を構築し、約６００台のワークステーションやパソコンが高速ネットワークで連結され、これを研究、教育活動の根幹に据え、あらゆる

日常活動に活用し、その中心が図書館、即ちメディアセンターで、学生達は一日の内必ずメディアセンターにやって来る。中心は電子メールで、教官からの課題設定、レポート作成、提出もＵＮＩＸ上で行い、友人とのつきあい、メディアセンターからのお知らせなどもこれによる。そのために情報コンセントが、メディアセンター内はもとよりキャンパス内のポイントに設置され、常時国内外との情報交換が可能とのことであった。

これらのことが日常化しているのは、学生の８５％が自前のパソコンを持ち、学生全員がブラインドタッチを修得し（これは必修）、パソコンを日常の文房具として使いこなす実力を持っていることによる。ここが最も大切な点で、今後の大学の情報教育の一つの方向性を示していると言えよう。

どんなに組織を改革し、高度な情報機器類を導入しても、それを使いこなす人々が未熟では、それらは無用の長物になってしまう。山口大学でも全学生にパソコン必携を義務づけるなど、情報教育の在り方を真剣に考えなければならない時期に来ていると思われる。

メディアセンターは三階建て地下一階で、地下には映像スタジオ、音響スタジオ、編集室、ＡＶホール等多くの施設と機器類を持つ。立命館も同様に大規模なスタジオやマルチメディアオープンパソコンルーム等を備えている。

一階のオープンエリアは各種情報関連機材の山である。例えば、５人で視聴出来る大型モニター付きのＡＶラウンジ、二人用等も多数あり、その他のＡＶ機器類、画像機器類等の施設がびっしりと詰まっていて、図書館より情報機器見本市の会場を見ているようだ。ワークステーションラウンジ、ワークステーション自習ルーム、ここで学生達はワークステーションの操作方法を修得する。

階段の脇にある情報加工コーナーでワークステーションと映像、音響機器類を駆使し、国内外からのインターネット情報を採り入れ、それを加工し編集して、就職用売り込み資料を作成していたはちまき姿の学生が強く印象に残った。

一階にはリサーチエリア、レファレンスセクションがあり、コンピュータルーム、高機能のワークステーションルームがある。その他、二、三階にマイクロ資料等があるシリアルズセクション、一般図書、グループ学習室等がある。

慶応大学、立命館大学のメディアセンターにやってくる学生の数はもの凄く、立命館では一日の利用者が平均５千人から６千人である。従来の文字だけの図書館では人をこのように集めることはできないだろう。兎にも角にも、慶応藤沢メディアセンター、立命館衣笠キャンパス図書館は活気に溢れた空間であった。

二つの機関の共通点は、

共に従来の図書館の概念では収まらない新しい情報機関を目指していること。

従来の総合情報センター、計算機センター等と境界を越えて融合し、マルチメディアセンター等の新しい名称にしていること。

事務機構との融合も行っていること。

遠隔地キャンパスとトータルで連携するシステムを構築していること。

共通教育を含む遠隔地教育を行っていること。

これからの図書館は必ずこのような形態になって行かざるをえないだろう。

そこで、私案だが、これからの山口大学附属図書館の将来構想を提案する。

名称は、やはりマルチ・メディア・情報センターとしたい。

(1)これまでの「総合情報処理センター」と図書館を融合させ「マルチメディア情報センター」の名称にする。「マルチ・メディア・情報センター」は、「図書管理システム」、「研究支援システム」、「教育支援システム」、「マルチメディアシステム」から構成され、さまざまな情報が異なる組織で個々別々に管理されている情報処理システムを一括管理し、情報への効率の良いアクセスを提供するＧＵＩ（graphical user interface）による快適な操作環境を実現させ、図書管理システムや事務管理システムに利用できるようにする。

(2)山口地区と宇部地区との２つのキャンパス間を光ファイバーで結んだ「ＡＴＭマルチメディアネットワーク」を設置し、双方向コミュニケーションによる遠隔授業（講義）を可能にする「教育支援マルチメディアシステム」を確立する。同時にＡＴＭマルチメディアネットワークを良質な画像をもつテレビ会議・電子会議及び山口・宇部教官の共同研究にも適用できるようにする。

(3)「研究支援システム」には従来のように、教官の研究の情報処理システムを設置すると同時にスペースコラボレーションシステム（ＳＣＳ）を位置づけ、他大学との共同研究を推進するようにする。また、マルチメディア・ヴァーチャル・ラボ（仮想研究所）を設置する。

以上のような計画を実現するためには大学内の議論が必要であるが、その際、各機関はセクト主義を捨て、お互いの学部間の垣根を可能な限り低くして、山口大学の将来を見据えた議論をすることが大切であろう。例えば、吉田キャンパスに色々な機関が有機的に運営される総合学術情報センターのような巨大な建造物を設置することは如何なものであろうか。

今後も機会を見つけて図書館巡りを続けるつもりである。

この文章を作成するに当たり、大学図書館新館紹介記事／慶応大学湘南藤沢メディアセンターXXXIX（1996／3）、立命館大学メディアセンターXLVⅢ（1992／1）を参考にした。

新図書館システムの構築にむけて

立命館大学総合情報センター
次長 郷端 清人

はじめに

立命館大学では、大学全体の諸機能の高度化と新たな展開での教育・研究の推進を可能とするための方策として、長期計画の重要な柱の一つに「情報化」を立て、学園全体の情報基盤整備事業を進めている。１９９４年４月より大規模なネットワーク・システムの運用を開始しており、その基にネットワーク型の新図書館システムを開発してきたが、これまで進めてきたシステム構築の取り組みについて紹介したい。

１．情報化への取り組み

本学が進めている情報化の概要は次の通りである。

（１）情報化の視点

大学全体の情報化を進めるにあたって、基盤整備が単にインフラ整備だけに留まらず、それがこれからの大学の教育・研究活動に十分に生かされていくよう大きくは次の４つの視点から事業を進めている。

第一には、本学ではこれまで情報に関わる組織は、教育・研究、図書館、事務、視聴覚の４部門に分かれて支援を行ってきたが、本格的なネットワーク時代をむかえ、これからのメディア・ネットワーク時代に対応していけるよう組織の再編整備を進めている。

第二に、基盤整備だけに留まるだけでは大学全体としてのネットワーク文化は創造されなく、また利用されるネットワーク・システムに成長していかない。新しいシステムを大学の構成員が日常的に深く関わり利用していくよう全員にネットワークＩＤ（約２万７千人）を配布し、グループウェアや学術情報データベースなどを整備し、システム利用の促進を図っている。

第三に、これからのシステム構築で考えていかなければならない点は学内外の情報ネットワークといかに密着したシステムを構築していくかであり、業務改革も積極的に進めている。

第四に、インターネット上のWWWサーバで見られるように、所有する貴重な学術情報を含めて大学は広く情報の社会的貢献を行っていく必要があると考えている。

（２）インフラ整備の概要

基盤整備事業は２段階に分けて実施してきた。第１期計画（１９９４年）は理工学部が移転したびわこ・くさつキャンパスと京都のキャンパスに新設された政策科学部を中心に大規模なネットワーク・システムを構築した。次に第２期計画（１９９５年）では、京都キャンパスにおける他の人文・社系学部（７学部）の教育・研究・学習を支援する情報基盤整備を行った。さらに展開していることは、これまで汎用機システムで構築していた図書館システムを１９９６年４月からネットワーク型のシステムを稼働させ、また事務情報システムについても順次ダウンサイジングによるオープンシステムに移行中であり、１９９７年１０月までにネットワーク型の新事務情報システムが完成する。

第１・２期計画で整備したハードウェアの内容は次の通りである。

計算機関係	WS	PC		プリンタ	情報コンセント	スーパーコンピュータ
		DOS/V	Mac			
衣笠キャンパス（京都）	56	788	474	170	2,000	
びわこ・くさつキャンパス(滋賀県)	716	133	87	76	3,000	1
合計	772	921	561	246	5,000	1

マルチメディア関係	LL装置	ビデオサーバ	CD-ROMサーバ	ビデオロボット	サテライト教室	スタジオ
衣笠キャンパス（京都）	7(352)	1	3		3	1
びわこ・くさつキャンパス(滋賀県)	2(110)		1	1	1	
合　　計	9(462)	1	4		4	1

2．新図書館システムの開発

図書館システムの構築は大学全体のシステムの有り様に大きく影響され、例えばネットワーク容量と構成、プロトコル、ＩＰアドレスの設定など、図書館単独では決められない問題が多く、また技術的、人材的、財政的な面等々についても極めて困難な状況となってきている。それを解決するための一つの方策として組織改革も同時に進めており、総合的な視点からシステム開発を行っている。

次にシステム開発の特徴をあげる。

（１）基本システムの選択

図書館システムを開発していく上において考慮しなければならない点は利用者数の規模、構築するデータの種類や規模であるが、本学の場合、全学５千ヶ所に情報コンセントを整備しており、またユーザの規模は約２万７千人がネットワークＩＤを取得している。そして、データベース規模はＯＰＡＣで２００万件、雑誌のカレントコンテンツ・データが１，０００万件になる。新システムではこれらを維持・管理、また快適に利用できるシステムの環境を保障することを目標とした。

このような条件を踏まえた上で、次に問題となるのがハードウェアの構成をいかにすべきかであった。その中でもとりわけ中心的な課題はサーバの選択である。そして同時に考えなければならないのがＤＢＭＳの選択である。いずれも選択判断は先に述べたような能力を十分に有しているかどうかを、またメンテナンスの容易さを重要なポイントととした。

その外に、開発言語の選択がある。最近では簡易言語が数多く出現しており、開発の容易さ、ステップ数が多くならないこと、またメンテナンスの容易さなどの視点から、ホスト言語を使わない手法を採択した。さらにクライアント側のインターフェイスは最近一般化してきているＧＵＩ方式による開発を避けることとした。その最大の理由は将来のメンテナンスと維持経費を考慮してのことである。また学内ＬＡＮのプロトコルは基本的にはＴＣＰ／ＩＰとしているが、ＣＤ－ＲＯＭサーバではＮｅｔＷａｒｅが必要となり、ハウスキーピングのサーバはＤＥＣｎｅｔを学内ネットワークの構成に組み入れた。

（２）学術情報のシステム化の範囲

新図書館システムを開発するにあたっての最大の問題は、図書館等が保有している学術情報をどこまでシステム化していくかであった。

これまで本学の図書館および視聴覚部門が蓄積してきた学術情報には、ペーパー類、写真、マイクロ類、映像類など様々な情報があるが、これらの情報のうち新システムで対応したものは、まずマルチメディア関係では、ビデオ・ロボットやビデオ・オン・デマンドによる映像システムを構築した。しかし、ここでの最大の問題はネットワーク容量と著作権の問題であった。またこれらのシステムはネットワークに相当の負荷がかかることから、学内ＬＡＮとは別の配線を敷設した。

次に、原資料関係ではこれまで別々のシステムで管理していたイメージ型のデータベースを新図書館システムのサーバに構築し、WWWで検索できるよう移行した。そしてＯＰＡＣは旧システムの情報（図書・雑誌目録ＤＢ、チェックイン、貸出情報、カレント・コンテンツ）をベースとし、これらに選書データベースを加えることとした。選書データは契約書店からネットワークを介して定期的に転送されてくる仕組みとした。さらに、視聴覚部門が保有していた視聴覚情報についての目録情報を新たにWWWサーバ上に構築した。また研究室が保有していた原資料のマイクロフィッシュを検索する検索キー・データベースをWWWサーバにのせ、研究者サービスの充実を図った。

（３）利用者サービス

ＯＰＡＣは多様なユーザを想定して、３種類の検索システムを開発することとした。

一つは、図書館内の専用端末から検索する場合の目録所在情報検索システムである。

二つ目は、昨今急速に広まっているWWW対応の検索システムである。このシステムでは大学外のユーザに対しても目録所在情報と雑誌の新着情報を公開している。また学内利用者に限って、外国雑誌のカレントコンテンツ情報をWWWで検索できるようにした。

さらに三つめはＴｅｌｎｅｔ対応の検索システムである。Ｔｅｌｎｅｔ対応の検索システムでは、学内利用者に限って図書の購入（公費、私費）希望を受付けることができる。

またＳＤＩサービスは学内利用者に限って行っているものであるが、これまでのＳＤＩ対象データベース（新着情報、カレントコンテンツ）に新たに契約書店の選書情報を加えた。ＳＤＩサービスの申込み方法は、WWW上でキーワードの登録・修正を行うことができる。

その外のサービスでは学内ＩＬＬシステムの充実やＴｅｌｎｅｔによる図書の予約とメールによる予約連絡などがある。また新たなデータベースとしては、特殊コレクションの全文データベースの検索やマイクロフィッシュのキーワード検索、さらに視聴覚資料の目録情報検索をWWW上で検索できるようにした。

一方、マルチメディア関係をあげると、ＣＤ－ＲＯＭサーバを両キャンバスに設置し、ネットワークを介して利用できるようにした。またビデオ・ロボット、ビデオ・オン・デマンドによる映像配信サービスを可能にしている。さらに図書館に配置しているパソコンに衛星情報が見られるようにしている。

（４）業務システム

新図書館システムで実現した特徴的な点を次に紹介する。

発注ステップでは、契約書店についてはネットワークを介して発注データを転送するシステムを構築した。そして、受入／装備／目録のステップでは、利用者により早く情報を提供するため、また業務の効率化・合理化を図るために、受入のステップから目録作業を組み入れ業務の迅速化を図った。

一方、雑誌については和・洋とも短時間でチェックイン作業が完了するようにしている。さらに外国雑誌については定期的にカレント・コンテンツ情報（年間：約200万件）を蓄積し、コンテンツ情報からでも即座に所蔵情報が把握できるようにしている。

’９６年６月末時点で新システムで蓄積している主要なデータは次の通りである。

データベース		件　　数
選書関係	外国図書Ａ社	223,176　タイトル
	外国図書Ｂ社	33,349　タイトル
	日販・ＴＲＣ	65,190　タイトル
蔵書	和・洋図書	1,013,360　タイトル
	和・洋雑誌	32,402　タイトル
カレント・コンテンツ・データ		3,281,849　件

３．今後の課題

今後さらに情報サービスの充実を図っていく予定であるが、これからの情報システム支援で重視していかなければならない機能は、①インターネット（ネットワークの拡充）への対応、②マルチメディア・データベースのサービス機能、③メディア・クリエート機能であり、これらの機能を業務にいかに取り入れていくかが当面の課題となる。

一方、大学内のあらゆる部門でネットワークを介した諸活動、またWWWサーバによる情報発信が大規模に拡大してくることは確実であり、本格的なネットワーク時代をむかえ、さらに学内の組織を見直していかなければならないと考えている。そして、インターネットではまさに生きた教材、また多様な学術情報が発信されてきており、大学における教育・研究がダイナミックに変革してくることは間違いのないことである。そうした中で近々の課題は、ネットワーク容量の問題であり、早急に学内ＬＡＮの大幅な見直しを行う必要がある。また、大規模なネットワーク・システムを運用していくためにはサポート体制をより一層充実させる必要がある。さらにこれから問題になってくるのがマルチメディア型データベースの著作権をどう解決していくかであるが、電子図書館の構築にむけてディジタル情報の著作権と課金問題について整理していかなければならないと考える。

〈参考文献〉

[１]社団法人日本私立大学連盟研修企画委員会 ：「ネットワーク時代の学術情報支援」１９９５年９月
[２]電子図書館研究会専門部会著「電子図書館時代へ向けての大規模図書館の未来像」１９９６年４月
[３]田中康雄「大学図書館における目録構築の新たな試み」「情報の科学と技術」46巻３号
[４]郷端清人「新図書館システムの構築にむけて」大学図書館研究 №50. 10／1996

講演あとがき

本稿は、平成９年３月１４日に開催された図書館職員研修会の講演録を掲載させて頂いたものです。

講　師：立命館大学総合情報センター　次長　郷端清人氏

テーマ：「新図書館システムの構築にむけて」

（山口大学附属図書館広報委員会）

第６８回日本医学図書館協会総会参加報告

医学部分館整理係長　上　田　照　賀

平成９年５月２２，２３両日、旭川医科大学の当番で旭川グランドホテルに於いて標記会議が開催された。

内容について、第１日目は司書会議が行われ、今回は、「医学図書館におけるネットワークの利用について」と題して、実務者レベルでの日常業務について、２つの事例報告が行われた。

始めに図書館業務電算化について、従来の業務処理型からネットワークを利用しての情報提供型へ移行発展している旨報告がなされた。

次に学術情報センターのNACSIS－ILLシステムのネットワーク利用と、それに関わる公立大学と私立大学との料金相殺制度について報告がなされた。

また、午後は「医学図書館サービスの現状と課題：利用者の立場から」と題してシンポジウムが開催され、札幌医科大学の辰巳先生から近年の情報の電子化に伴う情報メディアの多様化、ネットワークの発達等の中で特にデジタル情報は多様な物が統合されてユニメディアとして提携される必要性が述べられた。

さらに、既存の情報メディアも無くなることはないので、図書館は益々Knowledge navigatorの機能を期待され、さらには情報センター、計算機センター、資料館、博物館等々マルチ機能を持ち併わせた様相に変貌していくのではないかと予測された。

その他、図書館員、利用者、双方の情報リテラシー教育の必要性、病院図書室からの発表として、大学図書館へ対する有形（document delivery service等）、無形（図書館業務サポート等）の支援要望が述べられた。

第２日目は総会で、平成８年度事業報告、決算報告、平成９年度事業計画、予算案について議事があり承認された。

特に、本年度事業計画の中で協会７０周年事業の記念講演として、ＮＬＭ館長のリンドバーグ博士（ゴア

副大統領に情報ハイウエー計画を提言した）を招待して、１０月１３日に、東京市ヶ谷の日大講堂で開催されることが決定されています。

午後は、２つの講演が行われ、その中で、旭川医科大学眼科学講座「吉田晃敏教授」の「画像診断を用いたネットワーク医療」と題して、光ファイバーを利用した遠隔医療ネットワークを構築し、国内はもとより、１９９６年１１月からはアメリカハーバード大学医学部附属スケペンス眼科研究所との間でもオンライン・リアルタイムで診療の所見、手術のアドバイス等が日常的に行われるようになり、また、国を越えた定期的な医局同士のミーティングも行われているという最新医療の講演がありました。

この医療手法のコンセプトは、①「いつでも」②「どこでも」③「だれでも」④「最高の医療が受けられる」、これを図書館にあてはめても①②③④「最高の情報を得られる」という共通のコンセプトで応用出来るという解かり易く、共感出来る内容でした。

今後、在宅医療への応用、或いは三次元立体画像の伝送技術が課題ということでした。

この会議で特に印象に残ったのは、ネットワークの重要性と伴に、発表された先生方が情報処理の専門家顔負けの活動をなさっていることです。それが、我々図書館員にたいする大いなる啓発に繋がり目の覚める思いをいたしました。

以上、簡単ですが報告いたします。

本学関係教官寄贈図書 （受入順）

［**本館**］（平成９年３月～平成９年６月）

立山紘毅（経済学部助教授）

・現代メディア法研究　立山紘毅著　日本評論社　1996

利部聡（農学部助教授）

・動物生殖機能実験の手引き：憲法を現実に作動させるファクター
辻井弘忠編　菅原七郎監修　利部聡〔ほか〕執筆　川島書店　1996

長崎伸二（教育学部助教授）

・新しく拓く説明的文章の授業　長崎伸二著　明治図書　1997

高橋　学（名誉教授）

・A fractal-like geometry of the nucleus and its reproduction : A hypothesis by Takahashi Manabu 1996

白水完児（農学部助手）

・家畜のお灸と民間療法：クスリに頼らず経営改善　保坂虎重、白水完児他著
㈳ 農山漁村文化協会　1997

添田健次郎（人文学部教授）

・日本語アクセント史の諸問題　添田健次郎著　武蔵野書院　1996

中田範夫（経済学部教授）

・ドイツ原価計算論　直接原価計算を中心にして　中田範夫著　晃洋書房　1997

澤喜司郎（経済学部教授）

・交通安全論概説　澤喜司郎著　成山堂書店　1997

・交通計量経済学　澤喜司郎著　成山堂書店　1997

呉　鴻春（経済学部外国人教師）

・日本学者中国文章学論著選　王水照、呉鴻春編選　上海古籍出版社　1994

関　一雄（人文学部教授）

・一の坂川姫山国語国文学編集　関一雄編　笠間書院　1997

増田正勝（経済学部教授）

・現代ドイツ経営経済学：川崎文治博士傘寿記念　海道進〔ほか〕編著
増田正勝〔ほか〕執筆　税務経理協会　1997

渡辺幹雄（経済学部講師）

・ハイテクと現代自由主義：「反合理主義的自由主義」の諸相　渡辺幹雄著　春秋社　1996

纐纈　厚（人文学部教授）

・日本陸軍の対内政策　纐纈厚著　1997

川村博忠（教育学部　前教授）

・防長の近世地図史研究　川村博忠著　川村博忠教授退官記念事業会　1997

［医学部］

沖田　極（医学部教授）

・　消化管疾患：新しい診断法と治療　沖田極〔ほか〕著　杏林書院　1996
・　上部消化管疾患：症例からみた診断と治療指針　沖田極〔ほか〕著　杏林書院　1996
・　下部消化管疾患：症例からみた診断と治療指針　沖田極〔ほか〕著　杏林書院　1996
・　Frontier in hepatology 1996, Ed. Kiwamu Okita. Axel Springer Japan Publishing Inc.
・　Frontier in hepatology 1995, Ed. Kiwamu Okita. Axel Springer Japan Publishing Inc.
・　肝癌：診断と治療　沖田極〔ほか〕著　日本メディカルセンター　1997

神谷　晃（附属病院教授）

・　患者さんに伝えるくすりの説明マニュアル：薬剤情報提供のために　神谷晃、石本敬三監修　医歯薬出版　1997

平成９年度山口大学附属図書館各種委員会委員名簿

◎員は委員長

◇運営委員会

◎川口政宏（館長）
中村和行（医学部分館長）
田中正吾（工学部分館長）
滝野正二郎（人文学部）
岩部浩三（人文学部）
三好洋二（教育学部）
吉村　誠（教育学部）
中尾訓生（経済学部）
鈴木美津子（経済学部）
原　純一郎（理学部）
阿部憲孝（理学部）
佐々木功典（医学部）
西村龍夫（工学部）
梶田泰司（農学部）
那須哲之（農学部）
森松光紀（附属病院）
塚原正人（医療短大）

◇本館図書委員会

◎川口政宏（館長）
滝野正三郎（人文学部）
岩部浩三（人文学部）
三好洋二（教育学部）
吉村　誠（教育学部）
中尾訓生（経済学部）
鈴木美津子（経済学部）
原　純一郎（理学部）
阿部憲孝（理学部）
梶田泰司（農学部）
那須哲之（農学部）
渡邊正人（事務部長）

◇医学部分館図書委員会

◎中村和行（分館長）
佐々木功典（基礎）
河野裕夫（基礎）
森松光紀（臨床）
小田裕胤（臨床）
塚原正人（医療短大）

◇工学部分館図書・研究報告委員会

◎田中正吾（分館長）
西村龍夫（委員）
後藤邦彰（機械）
赤田倫治（応用化学）
菊池英明（社会建設）
平木英治（電気電子）
棚田嘉博（知能情報）
溝田忠人（機能材料）
平井　隆（感性デザイン）
柏木孝夫（共通講座）

◇図書館情報化システム推進委員会

◎渡邊正人（事務部長）
堀内眞也（情報管理課長）
猪瀬一夫（情報サービス課長）
井関　章（図書館専門員）
藤井良雄（総務係長）
三浦博士（受入係長）
江見伸子（目録係長）
藤本房枝（運用係長）
吉光紀行（参考調査係長）
松本美智子（相互協力係長）
上田照賀（医・整理係長）
岩戸友行（医・運用係長）
赤間篤彦（工・整理係長）
吉野君子（工・運用係長）
渡部哲夫（システム開発プロジェクト代表）

◇システム業務部会

◎猪瀬一夫（情報サービス課長）
井関　章（図書館専門員）
吉光紀行（参考調査係長）
上田照賀（医分館整理係長）
赤間篤彦（工分館整理係長）
渡部哲夫（システム開発プロジェクト代表）

◇システム開発プロジェクト

田中俊二（受入係）
高崎鈴枝（受入係）
赤野　徹（運用係）
鳥谷和世（参考調査係）
◎渡部哲夫（医分館運用係）
岡田　隆（工分館運用係）

◇附属図書館広報委員会

◎猪瀬一夫（情報サービス課長）
井関　章（図書館専門員）
須藤　馨（総務係）
西垣昇治（受入係）
山田千恵子（目録係）
中川秀夫（運用係）
吉光紀行（参考調査係長）
原口智美（相互協力係）
河本香代子（医分館運用係）
渡壁辰巳（工分館整理係）

◇本館資料選定委員会

滝野正二郎（人文学部）
◎三好洋二（教育学部）
中尾訓生（経済学部）
阿部憲孝（理学部）
那須哲之（農学部）
井関　章（専門員）
高崎鈴枝（受入係）
江見伸子（目録係長）
赤野　徹（運用係）
吉光紀行（参考調査係長）
三好静夫（相互協力係）
三浦博士（受入係長）

平成８年度　図書館統計表

Ⅰ　蔵　書　数（平成９年３月３１日現在）

区　　分	図　書（冊数）			雑　誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
本　　館	837,482	327,124	1,164,606	14,592	5,212	19,804
医学部分館	86,322	80,774	167,096	1,820	1,948	3,768
工学部分館	86,526	55,522	142,048	1,505	1,489	2,994
合　　計	1,010,330	463,420	1,473,750	17,917	8,649	26,566

Ⅱ　年間受入数

区　　分	図　書（冊数）			雑　誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
人文学部	2,410	844	3,254	415	290	705
教育学部	3,774	792	4,566	621	400	1,021
経済学部	4,417	2,258	6,675	2,175	963	3,138
理学部	200	724	924	41	250	291
農学部	400	213	613	217	163	380
共通教育	83	13	96		14	14
学生相談所					6	6
保健管理センター	20		20	9		9
埋蔵文化財資料館				9		9
医学部（本）	2		2	7	11	18
工学部（本）	99	205	304	9	19	28
本　　館	4,679	1,138	5,817	3,944	456	4,400
小　　計	16,084	6,187	22,271	7,447	2,572	10,019
医学部分館	1,879	2,033	3,912	810	757	1,567
工学部分館	1,562	1,660	3,222	569	535	1,104
合　　計	19,525	9,880	29,405	8,826	3,864	12,690

Ⅲ　利用統計

区　　分	開館日数(日)		入館者数（人）			館外帯出者数(人)	館外帯出冊数（冊）		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	計	時間内	時間外	計
本　　館	241	193	248,837	52,296	301,133	33,167	44,312	15,292	59,604
	一日平均		1,033	271					
医学部分館	245	240	37,117	23,165	60,282	14,147	14,990	12,673	27,663
	一日平均		151	97					
工学部分館	270	168	138,557	44,704	183,261	17,807	19,352	6,728	26,080
	一日平均		513	266					

Ⅳ　文献複写

区　　分		学内者			学外者	他大学等			合　計
		私　費	公　費	小　計	私　費	私　費	公　費	小　計	
電子式複写	本　　館	6,613	7,803	14,416	422	2,822	3,251	6,073	20,911
	医学部分館	6,741	9,384	16,125	613	6,513	3,700	10,213	26,951
	工学部分館	105	26,473	26,578	106	265	2,103	2,368	29,052
	合　　計	13,459	43,660	57,119	1,141	9,600	9,054	18,654	76,914
印画引伸	本　　館	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅴ　相互協力

	図書館の貸借（冊数）								文献複写（件数）							
	借　受				貸　出				依　頼				受　付			
	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計	国内	国外	謝絶	計
本　　館	390	0	62	452	444	0	193	637	5,387	0	259	5,646	6,073	0	1,259	7,332
医学部分館	9	0	0	9	12	0	0	12	3,696	18	0	3,714	9,600	0	1,599	11,199
工学部分館	18	0	5	23	26	0	17	43	1,763	0	241	2,004	2,293	0	226	2,519
合　　計	417	0	67	484	482	0	210	692	10,846	18	500	11,364	17,966	0	3,084	21,050

Ⅵ 参考調査

	所在調査	事項調査	利用調査	その他	計
本館	1,020	603	2,860	4,718	9,201
医学部分館	174	109	628	29	940
工学部分館	386	212	131	75	804
合計	1,580	924	3,619	4,822	10,945

人事異動

[停年退職](9. 3. 31) 井手明雄 附属図書館長
[定年退職](9. 3. 31) 安田浩規 図書館専門員
[定年退職](9. 3. 31) 恩知陽子 情報サービス課参考調査係長
[辞　職](9. 3. 31) 保坂雅子 情報管理課受入係
[任期満了退職](9. 3. 31) 田村小百合 情報管理課目録係
[辞　職](9. 4. 15) 濱﨑まり子 情報管理課目録係
[併　任](9. 4. 1) 川口政宏 附属図書館長（教育学部教授）
[採　用](9. 4. 1) 鳥谷和世 情報サービス課参考調査係
(9. 4. 1) 星井敬子 情報管理課目録係
(9. 4. 16) 渡邊美和 情報管理課目録係
[昇　任](9. 4. 1) 井関　章 図書館専門員（情報サービス課相互協力係長）
(9. 4. 1) 藤本房枝 情報サービス課運用係長（工学部分館整理係）
[配置換](9. 4. 1) 藤井良雄 情報管理課総務係長（経済学部会計係長）
(9. 4. 1) 三浦博士 情報管理課受入係長（工学部分館整理係長）
(9. 4. 1) 吉光紀行 情報サービス課参考調査係長（情報管理課受入係長）
(9. 4. 1) 松本美智子 情報サービス課相互協力係長（情報サービス課運用係長）
(9. 4. 1) 岩戸友行 医学部分館運用係長（香川医科大学附属図書館）
(9. 4. 1) 赤間篤彦 工学部分館整理係長（工学部分館運用係長）
(9. 4. 1) 吉野君子 工学部分館運用係長（医学部分館運用係長）
(9. 4. 1) 田中俊二 情報管理課受入係（情報サービス課参考調査係）
(9. 4. 1) 赤野　徹 情報サービス課運用係（情報管理課目録係）
(9. 4. 1) 萬代英夫 医学部管理課施設管理係長（情報管理課総務係長）

日誌

[本　館]

3. 14　平成8年度図書館職員研修会
4. 9～10　新入生オリエンテーション（各学部ごと）
4. 15　平成9年度第1回本館資料選定委員会
4. 21～24　初任者研修　鳥谷参考調査係員
4. 24～25　第45回中国四国地区大学図書館協議会総会及び第24回中国四国地区国立大学図書館協議会（島根）川口館長　渡邊事務部長　猪瀬サービス課長
5. 6　平成9年度第2回本館資料選定委員会
5. 6　平成9年度第1回附属図書館広報委員会
5. 9　システム業務部会
5. 20　平成9年度第2回附属図書館広報委員会
5. 21　山口県大学図書館協議会設立総会
5. 27　平成9年度国立大学附属図書館事務部課長会議（東京）
渡邊事務部長　堀内管理課長

6. 3 平成９年度第３回本館資料選定委員会
6. 5 図書館情報化推進委員会
6. 11 システム開発プロジェクト
6. 17 山口大学50周年記念誌編集委員会
6. 19 システム開発プロジェクト
6. 25～26 第44回国立大学図書館協議会総会（京都）
川口館長　渡邊事務部長　猪瀬サービス課長
7. 8 平成９年度第４回本館資料選定委員会
7. 14 第76回山口大学附属図書館運営委員会及び第46回山口大学附属図書館本館図書委員会
7. 18 平成９年度第３回附属図書館広報委員会
7. 28 システム業務部会
8. 6～ 8 目録システム地域講習会（山口大学附属図書館）

［医学部］
4. 9 医学部医学科２年生オリエンテーション
4. 9 医療短期大学部新入生オリエンテーション
4. 14 医療短期大学部看護学科３年生文献検索講習会
4. 21 〃
4. 22 医学部分館図書委員会
4. 24 大学院基礎コース文献検索講習会
4. 25 日本医学図書館協会資料保存委員会（大阪）上田整理係長
5. 22～23 日本医学図書館協会総会（旭川）中村分館長、上田整理係長

［工学部］
4. 7 編入生オリエンテーション
4. 7 博士後期課程オリエンテーション
4. 8 ２年進級生オリエンテーション
4. 9 夜間主コース１年生オリエンテーション
4. 23 第１回電子情報対策ワーキング
5. 26 図書・研究報告委員会
5. 26～30 文献検索講習会

お　知　ら　せ

☆ＣＤ－ＲＯＭサーバーの設置

今年度からＣＤ－ＡＳＡＸ*、ＯＥＤ**、および雑誌記事索引***の各種ＣＤ－ＲＯＭデータベース検索が、研究室および図書館のパソコンで利用できるようになりました。

図書館では、２台のパソコンを用意しておりますのでご利用下さい。また、研究室からご利用される場合は、ネットワークおよびアプリケーションのセットアップが必要となります。セットアップマニュアルを用意しております。

詳細は、参考調査係（Tel：５１８３）までお問い合わせ下さい。

*　ＣＤ－ＡＳＡＸ　　１９４５年上半期号から１９９５年１２月号までの朝日新聞縮刷版の巻頭記事索引をデータベース化したもの

**　ＯＥＤ　　Oxford English Dictionary をデータベース化したもの。

***　雑誌記事索引　　従来のスタンドアロンからネットワークに対応したもの。

☆ホームページの開設

図書館のホームページをリニューアルにオープンしました。
ホームページは、附属図書館（トップページ）と各館（本館、医学部分館、工学部分館）に分かれ、各館ではそれぞれ特色のある情報を提供しております。
アドレスはつぎのとおりです。

http://home1.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp

工学部分館が現在、提供しているものは、
①W.W.W.による山口大学所蔵検索（トップページ及び各館のページでも見ることができます）
山口大学附属図書館所蔵資料の検索がネットワークを利用して行えます。
②工学部分館目安箱
ご意見、ご感想などをご自由にお書きください。
③新聞・雑誌閲覧室
様々な新聞・雑誌をオンラインで見ることができます（ただいまさらに充実中）
また、試験運用中のものは、
④工学部研究報告の全文提供
さらに、作業中でとりあえずの暫定公開中のものは、
⑤海外主要雑誌コンテンツサービスです。

☆コイン式コピー機の導入

コイン式コピー機を導入しました。
プリペイドカードも併用できます。プリペイドカードは農学部売店で購入してください。コピー機は、参考図書閲覧室の書庫入口に設置してあります。
著作権を守ってコピーするようお願いします。

トピックス

☆２４時間開館の開始

平成９年８月１日から教職員、院生を対象に２４時間開館を始めました
利用するには、特別利用申請が必要です。詳細は、運用係（Tel：5182）までお問い合わせ下さい。

編集・発行　山口大学附属図書館　広報委員会
〒７５３　山口市大字吉田１６７７－１　TEL:0839-33-5183　FAX:0839-33-5186
E-mail:toshokan@po.cc.yamaguchi-u.sc.jp